

H36

5.85-2(4)

北京大学东方语言文学系日语教研室编

第四册

基础日语

商务印书馆

北京大学东方语言文学系

日语教研室编

基础日语

第四册

商务印书馆

本教科书供高等院校日语专业二年级下学期使用。

本教科书主要编写人为孙宗光，参加编写工作的有徐昌华和于荣胜。

本教科书于一九八五年十月在苏州召开的全国外语教材编审委员会日语组审稿会上被一致通过为国家教育委员会推荐教材。主审人为南开大学孙莲贵副教授(编审委员)和大连外国语学院阎淑仁副教授(编审委员)，洛阳外国语学院王日和副教授(编审委员)参加了审稿。

曾在北京大学任教的日本专家鸟井克之先生参加了部分编写工作。

JĪ CHŪ RÌ YŪ

基础日语

第四册

北京大学东方语言文学系

日语教研室编

商务印书馆出版

(北京王府井大街36号)

新华书店北京发行所发行

文字六〇三厂印刷

统一书号：9017·1568

1987年4月第1版 开本 850×1168 1/32

1987年4月北京第1次印刷 字数 263千

印数 5,700册 印张 11 1/4

定价：1.75元

编者说明

《基础日语》第四册共十五课。每课均由课文、词汇、语法、句型、常用语句、练习等六个部分组成，它们互相照应、互相配合，重点复现，形成一个整体。

(一) 课文

课文均为原文，题材比较广泛，文体也比较多样。

(二) 词汇

第四册课文生词有一一九一个，补充生词有二〇二个。列入生词表里的，不局限于词，一部分词组、句子，甚至某些语法词也作为生词处理。每一课设构词法（語構成）一栏，说明词语的结构。

(三) 语法

在第四册语法里主要讲授副助词、接续助词、终助词和形式体言，对其他各类助词、助动词的用法作了补充说明，对接续词、副词和复合词构成进行了整理，对句子分析作了进一步的介绍。

(四) 句型

第四册共出现句型六十七个，对每个句型的结构、接续法、意义和译法作了简要的说明，并附上了例句。

(五) 常用语句

选择惯用型、常见的词的搭配、谚语、典故、习惯用法等，对其结构、意义和译法作了说明。

(六)练习

编者参考了国内外出版的一些日语教材，充实了练习部分。练习的目的在于使学生巩固和熟练运用所学的语言知识，并加以扩展。因此，必要时也出现一些生词和习惯用法，但不涉及新的语法现象。

练习分口头和笔头两部分。我们安排了较大的练习量，供任课教师根据学时和需要选用，并供学生课外自习。一般口头练习在课堂进行，笔头练习可留作课外作业。

第四册适当增加了翻译练习，目的在于使学生以汉日对比的方法认识各种文体的文章的特点，从而更准确地掌握日语，但这种练习形式有别于翻译课的练习。

在编写本书过程中，我们得到了兄弟院校日语教研室以及本校许多同志的热情帮助，在此表示衷心的感谢。

由于编者水平有限，缺点和错误在所难免，敬希读者批评指正。

北京大学东语系日语教研室

一九八六年五月

目 録

第十六課	一
本文：日本家屋の特色	二
新しい単語	五
文法	七
文型	八
練習	一五
第十七課	二一
本文：すぐれた文学とはどういうものか	二三
新しい単語	二五
文法	二七
文型	二九
練習	三五
第十八課	四二
本文：啄木の歌	四二

新しい単語	四六
文法	四九
文型	五五
練習	五八
第十九課	六七
本文：水中翼船	六八
新しい単語	七二
文法	七四
文型	七八
練習	八六
第二十課	九三
本文：手紙のいろいろ	九四
新しい単語	一〇〇
文法	一〇三
文型	一一一
練習	一二七
第二十一課	一三六

本文：コタンに生きる	一三七
新しい単語	一三三
文法	一三四
文型	一三七
練習	一四〇
第二十二課	一四九
本文：疑問は科学を進歩させる	一五〇
新しい単語	一五〇
文法	一五四
文型	一六一
練習	一六六
第二十三課	一七二
本文：駅弁	一七三
新しい単語	一七五
文法	一七八
文型	一八〇
練習	一八八

第二十四課	一九四
本文： かりんとう(上)	一九五
新しい単語	一九八
文法	二〇一
文型	二〇二
練習	二〇七
第二十五課	二一四
本文： かりんとう(下)	二一五
新しい単語	二一九
文法	二二三
文型	二二三
練習	二二七
第二十六課	二三四
本文： 日本文化の特色	二三五
新しい単語	二三八
文法	二三九
文型	二四二

練習	二四六
第二十七課	二五四
本文：太陽の沈まぬ国	二五五
新しい単語	二五九
文法	二六一
文型	二六二
練習	二六九
第二十八課	二七五
本文：ことわざ	二七六
新しい単語	二八〇
文法	二八一
文型	二八五
練習	二九一
第二十九課	二九八
本文：千曲川のスケッチ	二九九
新しい単語	三〇一
文法	三〇四

文型	三〇九
練習	三〇九
第三十課	三一八
本文：黒いご飯	三一八
新しい単語	三二四
文法	三二八
文型	三三〇
練習	三三六
附録	三四三
日语罗马字的拼写法	三四三

第十六課

文 日本家屋の特色

文法 一、格助詞「と」的補充用法

二、接続助詞「つつ」

句型 一、**「动词连用形」**ようが(の)ない

二、**「体言」** 句子 と言っても過言ではない(言い過ぎではない)

三、**「用言未然形」** **「体言で」** ないかぎり

四、**「动词过去时」**ところで

五、**「と」**に应じてゝする

六、**「用言连体形」** **「体言」**につけ **「用言连用形」** **「体言」**につけ

語構成

常用語句

練習

口頭練習

筆答練習

文

日本家屋の特色

日本家屋の特色は、木造だということである。一般には、日本が森林資源に恵まれているからだと
いわれている。そういえば西洋風の石造りが少ないのも、石材資源が少なかったからに違いない。
しかし、考えてみると、日本のように地震の多い国では、木造家屋のほうがかえって適していた
とも言えるのである。木造はたしかにこわれやすいが、こわれてもすぐ造り直すことができる。石
材で造られていると一応は強いかも知れないが、ひとたびこわれるとしまつが悪い。こわれても
すぐ建て直すことのできる簡便さ、これこそ木造家屋の大きな利点である。そのうえ、日本は台風
の通路に当たっている。雨も多く、大水も出る。また、火災も決して少なくない。これではどんな
家を建てても、安心して住むことができない。こうして日本の家屋は、災害の起こるたびに破壊さ

れてきた。それを日本人は、どうにも防ぎようのない災難とあきらめ、そのつど根氣よく造り直してきた。これが日本の都市発展の歴史ともなっているのである。

日本家屋の特色としては、木造ということのほか、家の内部がしきられていないことも指摘しなければならぬ。ふすまや障子は一応しきりの役をしているが、それらはいつでも取り除くことのできる間じきりである。そのうえ、外部に対しても、窓でなく全面開放の形になっている。つまり、家屋全体が床と柱と屋根だけでできているといつても過言ではないが、これこそ夏を過ごすのに最適の構造なのである。

もしも欧米式に厚い壁でしきってあったならばどうか。夏は蒸し暑くて、どうにも過ごしようがなかったに違いない。間じきりがなかったために涼しい風が自由に吹き抜けていく。また、屋根の下にさらに天井を張った造りが日光の直射を防ぎ、高い床が湿気の侵入を防いでいる。日本家屋は、確かに夏の蒸し暑さを防ぐのに最適の構造である。冬は寒いといつても、衣類を着込み、火を燃やすことによつてしのぐことができる。それにひきかえ、夏のさなか、狭いへやにとじこめられる苦しさは、冷房でもしないかぎり、耐えることができない。

日本の家屋としては、へやに畳が敷いてあるのも特色である。寝るときにはその上にふとんを敷く、すわるときには座ぶとんを敷く、食事時には食卓を出す。こうして、寝室が居間になり、あるいは食堂になり、各へやの転換は自由自在である。客用の座ぶとんを出せば、そこが客間になる。客の数だけ座ぶとんを出せば、一つのへやで幾人でも接待することができる。いすやテーブルを置

いた客間では、収容人数が限られており、とてもこうはいかない。もしもお客の数が多ければ、ふすまや障子をはずし、次のへやと続けることもできる。こうして、狭いへやは必要に応じて広くなり、家全体を大広間として使うことも可能になる。厚い壁でしきってある建て方では、機に応じて広さを変えるなど、まったく不可能である。

つまり、日本家屋の場合は、客間だけが客間ではない。居間も寝室も食堂も全部が客間になる。それと同時に全部が食堂になり、寝室にもなる。居間のソファ、食堂のテーブル、寝室のベッド、そういう持ち運び不便な大きな家具によってへやを特徴づけることがない。簡便な座ぶとん、食卓、ふとん、それがへやの用途を多様にし、しかも使わないときは押し入れに片付けてしまう。これが日本家屋における利用面での特色にもなっている。

したがって、日本家屋には個室がない。一応は主人のへや、妻のへや、こどものへやと分けられてはいる。しかし、それぞれは決して独立のへやでもなく、かぎも掛からない。かぎが掛かったところで、ふすまや障子のしきりでは、中での話し声や物音がそのまま外に聞こえてしまう。そのため個人主義的な考え方の発達が遅れたのだともいわれている。その反面、日本においては家族主義的な考え方が尊重され、個人の問題も家族全体の問題となる傾向が強い。個々の財産も、一応は個人に属しているが、家族全体の共有という考え方が強い。いいにつけ、悪いにつけ、これらの点もまた、長年の伝統を持つ日本家屋の構造と無縁ではないのである。

しかしながら、以上述べたような日本家屋の特色も、生活の洋風化にともなって急速に失われつ

つあるのが現状である。このことが日本人の意識構造にどのような影響を及ぼすかは、注目に値
いするところである。

〔新しい単語〕

家屋(かおく)〔名〕 房屋

特色(とくしよく)〔名〕 特色

木造(もくぞう)〔名〕 木造建築

西欧(せいおう)〔名〕 西欧

石造り(いしづくり)〔名〕 石頭建築

石材(せきざい)〔名〕 石頭、石料

地震(じしん)〔名〕 地震

適する(てきする)〔自サ〕 適合

ひとたび(一度)〔副〕 一旦、如果

簡便(かんべん)〔形動〕 簡便

通路(つうろ)〔名〕 通路、通道

火災(かさい)〔名〕 火災

災害(さいがい)〔名〕 災害

破壊(はかい)〔名・他サ〕 破壊

つど(都度)〔名〕 毎次、毎回

根気よく(こんきよく)〔副〕 很有耐心地

しきる(仕切る)〔他五〕 隔开

ふすま〔名〕 (两面糊紙的) 隔扇

障子(しょうじ)〔名〕 (日本式房屋木框糊紙的) 拉门

取り除く(とりのぞく)〔他五〕 去掉

間じきり(まじきり)〔名〕 隔板

外部(がいぶ)〔名〕 外部

全面開放(ぜんめんかいほう)〔名〕 全面开放

床(ゆか)〔名〕 地板

最適(さいてき)〔形動〕 最佳、最合适

構造(こうぞう)〔名〕 构造、结构

欧米(おうべい)〔名〕 欧美

張る(はる)〔他五〕 张挂、展开、铺设

直射(ちよくしゃ)〔名・他サ〕 直射

湿気(しっけ)〔名〕 湿气、潮气

侵入(しんにゅう)〔名・自サ〕侵入

衣類(いるい)〔名〕衣服,服装

着込む(きこむ)〔他五〕多穿衣服,穿上

しのぐ(凌ぐ)〔自五〕忍受

それにひきかえ〔組〕与此相反

さなか(最中)〔名〕最高潮,在…之中

とじこめる(閉じ込める)〔他一〕关在里面

冷房(れいぼう)〔名〕冷气

畳(たたみ)〔名〕草垫

敷く(しく)〔他五〕铺

ふとん(布団)〔名〕被褥

座ぶとん(ざぶとん)〔名〕坐垫

食卓(しょくたく)〔名〕饭桌

寝室(しんしつ)〔名〕寝室,卧室

居間(いま)〔名〕起居室

転換(てんかん)〔名・自他サ〕转变

客用(きやくよう)〔名〕客人用

幾人(いくにん)〔数・副〕多少人

接待(せったい)〔名・他サ〕接待

収容人数(しゅうようようにんずう)〔名〕容纳人数

限る(かぎる)〔自他五〕限,限定

はずす(外す)〔他五〕拆除

大広間(おおひろま)〔名〕铺有「たたみ」的客厅,宴会

厅

持ち運び(もちほこび)〔名〕搬动

家具(かぐ)〔名〕家具

多様(たよう)〔名・形动〕多样

押し入れ(おしいれ)〔名〕壁橱

個室(こしつ)〔名〕单间,个人房间

分ける(わける)〔他一〕分,分开

物音(ものおと)〔名〕声音

発達(はったつ)〔名・自サ〕发达

遅れる(おくれる)〔自一〕迟,晚

反面(はんめん)〔名〕反面,另一面

家族主義(かぞくしゅぎ)〔名〕家庭至上主义

個々(こご)〔名・副〕各个,每个

財産(ざいさん)〔名〕财产

共有(きょうゆう)〔名・他サ〕共有

点(てん)〔名〕点,方面

長年(ながねん)〔名〕多年